

## 国家戦略特区ワーキンググループ ヒアリング（議事要旨）

---

### （開催要領）

- 1 日時 令和元年5月13日（月）17:50～18:08
- 2 場所 永田町合同庁舎7階特別会議室
- 3 出席

#### <WG委員>

- |    |        |                         |
|----|--------|-------------------------|
| 座長 | 八田 達夫  | アジア成長研究所理事長<br>大阪大学名誉教授 |
| 委員 | 秋山 咲恵  | 株式会社サキコーポレーションファウンダー    |
| 委員 | 阿曾沼 元博 | 医療法人社団澁志会瀬田クリニック代表      |
| 委員 | 中川 雅之  | 日本大学経済学部教授              |

#### <自治体>

- |       |                    |
|-------|--------------------|
| 鶴田 晋也 | 養父市国家戦略特区・地方創生担当部長 |
| 羽瀧 猛  | 養父市国家戦略特区・地方創生課長   |
| 東 宏樹  | 養父市国家戦略特区・地方創生課主事  |

#### <事務局>

- |       |                 |
|-------|-----------------|
| 森山 茂樹 | 内閣府地方創生推進事務局次長  |
| 蓮井 智哉 | 内閣府地方創生推進事務局参事官 |
| 山本 哲也 | 内閣府地方創生推進事務局参事官 |

### （議事次第）

- 1 開会
- 2 議事 平成30年度の養父市の取組に係る評価について
- 3 閉会

---

○蓮井参事官 それでは、4コマ目でございます。養父市からお越しいただいて、ありがとうございます。

それでは、「平成30年度の養父市の取組に係る評価について」でございます。お手元の御提出いただいた1枚の概要紙、裏面も含めて、こちらの紙は公表、公開扱いでよろしゅうございませうか。

○鶴田部長 はい。

○蓮井参事官 今日の議事内容についても公開ということよろしゅうございませうか。

○鶴田部長 はい。

○蓮井参事官 時間も限られますので、端的に御説明いただくということで、八田座長、よろしく願いいたします。

○八田座長 お忙しいところをお越しくささいましてありがとうございます。

それでは、今、申し上げましたように簡潔に御説明をお願いいたします。

○鶴田部長 今年からこういった年度当初のヒアリングをやっていただけるということで、非常に担当としてもありがたいなと思っております。

まずは、平成30年度の活用メニューの概要を簡単に説明させていただきます。平成30年度は服薬指導の特例と農家レストランの2件を活用させていただきました。

新規の提案としましては、まだ法案が通っておりませんが、サンドボックス制度の活用ということで、イメージは農業機械の関係もかなり自動走行が進んできている中で、今、平地を中心に農林水産省は色々な研究をしております。

一方で、中山間地域の農作業についても自動化を進めたい、進めないと中々担い手が確保できないということで、やって行きたいのですけれども、農地の一筆の大きさが非常に狭い関係で、一旦圃場に入ってからまた次の圃場に行くときに、必ず農道であったり公道を走らなければ効率が上がらないということで、ここに書いてありますけれども、散在する農地を結ぶような公道を含めトラック等の自動走行を、サンドボックス制度を活用しながらやりたいと。

後程触れますけれども、この法律のお膳立てとして、平成31年度から農林水産省がスマート農業の推進実証事業を全国的に行っております。50億円程度の予算を確保して全国60か所で実証実験をやろうという事業を、今年と来年でやろうということでございますので、まだ、公道は走れないのですが、圃場単位での実証を養父市も手を挙げさせていただいて、圃場ベースではまさにそのプロジェクトが動いている。そこに特区のサンドボックスが広がれば、その枠組みを活用しながらさらに公道でもできないかというものを色々な研究機関を巻き込んでやっていきたいというのが、今後の養父市の特区で一番大きなところだと考えてございます。

自己評価を書いてございますけれども、遠隔服薬指導につきましては、一つ目の服薬指導実績が出来ました。それがきっかけとなりまして、市営の診療所もオンラインでやってみようということで、今2か所で実施しているところでございます。

2か所目の市の薬局は病院に併設されたものですので、遠隔服薬指導の特例は活用せずに、医者が直接処方箋の指示を出していらっしゃるということで、特区の活用というわけではないのですけれども、1件目の特区を活用して実施しているオンライン診療をきっかけに、市内の別の市営の医者も取り組むようになったということでございます。

二つ目のポツにつきましては、自家用有償観光旅客等運送事業の件です。これは、平成29年度にお認めいただきまして、平成30年の5月から実施してございます。まだまだ利用の実績はそれほど多くございませんけれども、やはり中々タクシーを使うという文化がなかったところに、こういった自家用有償観光旅客等運送事業という枠組を入れております

ので、少し苦勞をしているところもございますけれども、傾向としては順調に利用者が伸びてきておりますので、今後さらに活用できるような色々な工夫をしていきたいと考えております。

また、三つ目と四つ目に、農業法人の特例を作りまして設立した二つの特区事業者が新たな広がりを持って事業展開をやっていることを書いてございまして、一つ目のやぶファームは、平成30年4月に太陽光利用型の水耕栽培施設を造られています。これは西日本最大クラスで、年間155トンと非常に大規模でやっていただいております。雇用のほうも、正規職員を雇っていただく。これまで、中々正規職員の雇用は発生していなかったのですが、通年で仕事が発生するというので、会社のほうも正規雇用2名、非正規でも39名の地域雇用を出していただいております。

まだ、トータルエネルギーのほうでは、家畜糞尿と食品残渣を活用しましたメタンガスの発電施設の稼働がこの3月に始まりました。こちら10名ほどの雇用が期待できるということで、農業法人からスタートしましたが、それをコアにどんどん広がりを持ってきているということで、養父市としても非常にありがたいというところがございます。

裏面のほうに、若干課題を書いてございますけれども、昨年度は遠隔服薬指導であったり、自家用有償観光旅客等運送事業であったり、農業分野でのメニューの活用事例が若干少なかったかなということがございます。

また、特区を契機に設立されました農業法人が、やはりしっかり頑張っているところもあれば、うまく行かなかったところも発生してきているのが実態でございます。

今後の取組方針ですけれども、先程触れましたスマート農業とサンドボックス制度を活用して、何とか公道も含めた形で自動走行をやっていきたいと思っております。

今の課題としまして、中山間地域の傾斜のきつい坂を自動走行させるということは技術的にまだ追いついていません。いくらメーカーにやろうと言っても及び腰なのと、まだ、そういう技術が整備されていないということです。今回、農研機構という農林水産省の研究機関と協定を結ぶ予定でございまして、農研機構も平地の自動走行はもう実証レベルに来たということで、次は中山間地域をやらなければいけないということで、特区制度の活用とか色々な条件という意味では、養父市が非常に使い勝手が良いということで、5月25日あたりに協定を結びまして、テストフィールドの一部として養父市を活用していただけるような調整をしているところでございます。

あと、ドローンの活用等もございますけれども、注力したい分野の三つ目で書いてございますけれども、効果の検証も市独自の予算をもちまして、今年度1年かけてやっていきたいと思っております。シンポジウムで秋山先生にお越しいただいて、特区の効果を色々と市民に向けてPRしているところなのですが、中々定量的な形で示せていないというところで、まだまだ市民の方が特区に対する効果は本当にどうなのかなという疑問を持っていらっしゃることもございますので、300万円ほどをかけて神戸大学の経済学部の先生とジョイントをしまして、今回の特区の効果を可能な限り定量的な形で対外的に示せる

ような準備を進めていきたいと考えてございます。

あとは、検討中の新規提案ということでいくつか書いてございますけれども、仙台市でも御提案いただいていたようなオンライン医療の更なる規制緩和でありますとか、二つ目のポツは当方の整理なので規制緩和には繋がりませんが、三つ目の法人農地取得が時限措置、既に4年目に入るということで、次のステップを整備しなければいけない時期に来ておりますので、是非とも法人農地取得の事業を全国展開できるように、逆に効果も示していかなければいけないと考えております。

また、スマート農業の話のスタートは農業から入っていったのですが、最終的に市長は、過疎化が進む中で市民の生活を維持するためにはスーパーシティのような構想で市民サービスをしていかないとうまく行かないだろうということで、スマート農業に取り組んだ実績を踏まえながら、このスーパーシティ構想にも繋げていければと考えております。

少し長くなりましたけれども、私のほうからは以上でございます。

○八田座長 どうもありがとうございました。

それでは、委員の方から御質問、御意見を伺います。

中川先生、どうぞ。

○中川委員 非常に積極的にさまざまなことにお取り組みになっていただいて、私は本当に感謝申し上げますけれども、先程おっしゃった農業法人でうまく行っていないところがあるという話で、やはり農業を行う主体が拡大していくことも非常に重要だとは思っているのですが、養父市が色々取り組んでいらっしゃる規制改革のメニューですとか色々な取組と、うまく行っていない農業法人は何か関係があるのでしょうか。

ちょっと漠然とした言い方なのですが、要は、農業に関してまだまだ規制改革とかで非常にハードルが高いものが残っていて、それがまだ解決できていなかったからうまく行っていないとか、そういう、養父市が非常に積極的に取り組んでいらっしゃるという環境と、うまく行っていない農業法人との関係は何かあるのか。それとも、もっとマクロなものすごく大きなショックがあって、そういうことになったのかということをお教えいただければと思います。

○鶴田部長 うまく行っている法人もありますけれども、その法人は、本拠地が愛知県のほうで頑張っていたら、養父市に入ってきていただけるというお話でした。色々な農地の確保に市も噛みながら調整を色々してきたのですが、どうしても力と言いましょうか、マンパワーと言いましょうか、中々養父市のほうに作業の手を割けられないという実態的な話がございます、かなり色々な調整はしたのですが、今般、あまりずるずるやってもかえって養父市に迷惑がかかるだろうということで、うまく行かなかったということになってございます。補足があれば、お願いします。

○秋山委員 養父市からは言いづらいかもしれないので、少しだけ補足をさせていただきます。

私は外部の人間として事情もお伺いをして、スタートのときも拝見していましたので、その結果こういうことが起きたというのは、どちらかと言うと、特区制度というよりは、一般的なビジネスの世界で色々チャレンジをした中でうまく行くところもあれば、うまく行かないところもあるし、一社一社から見れば、リソース配分とか経営戦略で優先順位もありますので、そういうことで特に大きな問題や課題があるということではないという認識です。

○八田座長 阿曾沼先生、何かありますか。

○阿曾沼委員 昨今、自動車の走行や運転などで社会的課題が話題に上がってきていますので、無人の自動運転、自動走行が危険だという観点ではなく、むしろ安全性を高めるという観点で議論していくことも必要だと感じています。実験フィールドは土地の一筆一筆が小さくて離れているからこそ公道を走らなければいけないという被実験場になるので、トラクターの運転手の方の高齢化が進んでいるのかはよく分かりませんが、自動運転を、安全性を高める視点で技術的効果を示していくことも考えていただければと思います。

それから、遠隔医療では、診療報酬の担保がなかったら進まないということで、平成30年改定の中で結構大きな改定があったのですが、ただ、残念ながらいくつもの前提条件が付いていて、実際にまだまだ普及が促進できないということがあるわけです。

来年の改定でどういうふうに織り込めるのかということがありますが、特に特区での具体的要望が重要であると思いますので、早急にまとめて御提案をいただければありがたいと思っています。

○鶴田部長 まさに自動走行、最終的にはスーパーシティに繋げたいというお話も差し上げましたけれども、自家用有償観光旅客等運送事業とも関連するのですが、中々車が当たり、前の町で運転免許証を自主返納をするというハードルの高さは警察庁のほうも65歳以上が5,000人ぐらいいらっしゃるらしいのですけれども、返ってきても年間100件も戻ってこない。鶏と卵の話なのかもしれないのですけれども、代替の交通機関が無いから返さないのかどちらなのかはっきりしないのですが、やはり先程自家用有償観光旅客等運送事業の話で、少し利用率が伸びていないというお話を差し上げましたけれども、この取組は元々制度設計をする際に、今使いますかという投げかけではなくて、将来的にどうしますかという投げかけなのです。ですので、この取組は1年、2年成績が中々伸びなかったからといってやめてしまうことはできなくて、5年、10年、もっと長い視点で続けていかなければいけないと考えています。

また、先程のトラクターの話なのですけれども、人がいないからより安全にということ、そういった技術も取り組みながらやろうとしているのですが、今、家で色々なところに出ていくAmnakという農業法人のところで、フィールドとしてやっただけなんですけど、実はちょっと職員が変わりまして、今年生まれて初めて田植えをする方が、この度自動走行の田植え機に乗ったり、トラクターに乗る予定です。

その方は、こんなずぶの素人がこんなにスピーディーに田植えができることが信じられないとおっしゃるのです。おそらく慣れば慣れるほどもっと効率が上がっていくと思うのですけれども、そういったことで、今回は、業体が入って企業も農業に参入されて、農業に詳しくない方でもそういったデータをしっかり取る、自動化とデータを取るというのが、今回のスマート農業の一番の目玉なのですけれども、データを取ったことで、効率的に最小限のリソースで最大限の収益を得ることができるのではないかとということで、関係者一同非常に期待をしているところでございます。

○八田座長 ありがとうございます。

それでは、秋山先生は何かありますか。

○秋山委員 大丈夫です。非常によくやっています。

○八田座長 それでは、今日、色々出た話も取り入れていただきたいと思います。

どうもありがとうございます。